

学校教育目標

ふるさとを愛し、
夢と希望に向かって
主体的に学ぶ護江っ子の育成



ソフトボールを楽しむ②

スポーツや文化活動を通しての友だちづくり、絆づくりが人生において、とても貴重な場であることを山本先生の生き方から学ぶことができます。また、教員の世界に生きる者たちだけでなく、様々な職業の方たちと交わり、視野を広く持ちなさいと自分自身が言われているように受け止めています。山本先生のように目標を持ち、これからも力強く歩んでいきたいと決意を新たにしました。

「ソフトボールを楽しむ」② 山本常男

今でも当時の卒業生たちが、県民体育大会やママさんソフトボール大会で活躍している姿に接することができ、何ともうれしい限りである。

杵築高校に帰ってからは、ソフトボール部がなくて寂しい思いをしていたが、杵築市でソフトボール協会の設立の話があり参画することができた。以後、協会の一員として協力させていただき、一般女子ソフトボールの結成にも関わらせていただいた。

四十代になり、住吉浜ソフトボールクラブの壮年チームに、五十代では実年チーム、六十代ではシニアチームに所属しソフトボールを楽しんでいる。この二十一年間で九州ブロック国体に二回(沖縄、熊本)、西日本大会に十四回、全国大会に二回、九州大会に数回出場することができた。ソフトボールは、健康維持はもとより、全国各地を旅行できる大きな楽しみがあり、そして何よりも沢山の友人をつくることのできたことである。杵築住吉浜ソフトボールクラブ員は約五十名いるが、職業も多様であり、様々な人生経験を持ち、幅広いもの見方・考え方を学ぶ場になっている。練習の時間よりも後の一杯の時間のほうが長いのが常でノミ(飲み)ニケーション抜群のチームである。

これからも、体の続く限りソフトボールを楽しみ、ハイシニア大会(六十八歳以上)出場を目標に頑張りたいと思う。

完



先輩の先生に学ぶ

1月26日(火)に、元本校校長阿部恒次先生による「3年生工作教室」を開催しました。4年目となる今年は、「ころころタンク」を中心に作成しました。子どもたちの「作りたい」という意欲を引き出し、考えて、工夫して作るという指導です。工作に夢中になっている子どもたちの姿、主体的に意欲的に活動する子どもたちの姿がありました。その指導方法に私たち教職員も学ばせていただきました。



なわとび集会

1月29日(金)に「なわとび集会」を行いました。「練習すること」とは、繰り返し、繰り返し同じことにチャレンジすること。失敗しても、失敗しても、できるとき、成功するときがくることを「なわとび」を通して学んだ子どもたちでした。そして、個人としてもチームとしても「やり抜く力」を身につけることができた価値ある、素晴らしい集会となりました。(保護者の方のご参観がかなわず、すみませんでした。)

